

予防鍼灸研究会（SGPAM）

第23回定例会・ 発足5周年記念講演会 抄録

テーマ：ジストニアの臨床最前線
～西洋医学と東洋医学の視点から～

2025年11月30日

目次

【開催概要】	2
【タイムテーブル】	3
【会場案内】	4
【会長挨拶】（仮文）	5
抄録【症例報告①】	6
抄録【症例報告②】	7
抄録【基調講演】	8
抄録【教育講演】	9
【特別企画：ミニ鍼灸万博】	10
【ミニ鍼灸万博：出演者紹介】	11
【予防鍼灸研究会について】	12

【開催概要】

■ 名称

第23回予防鍼灸研究会 定例会・発足5周年記念講演会

テーマ：ジストニアの臨床最前線 ～西洋医学と東洋医学の視点から～

■ 日時

2025年11月30日（日）13:00～16:30

（16:45～18:45 懇親会あり）

■ 会場

山崎製パン企業年金基金会館（〒272-0034 千葉県市川市市川1-3-14）

■ 主催

予防鍼灸研究会（SGPAM）

■ 参加資格

鍼灸師・医師・医療従事者・学生

■ 参加形式

現地開催（アーカイブあり）

■ 注意事項

- ・会場内での録音・録画はご遠慮ください。
- ・携帯電話はマナーモードに設定をお願いします。
- ・進行の妨げとなるため、講演中の入退室は必要最小限をお願いします。
- ・体調がすぐれない方は無理をせず、スタッフにお声がけください。

■ 受付について

- ・受付開始は12:30を予定しています。
- ・名札をお受け取りになり、前より着用をお願いします。
- ・参加費は事前決済済みの方のみご入場いただけます。

■ 当日のご案内

- ・休憩はプログラムに従って進行します。
- ・資料は本抄録集をご利用ください。
- ・懇親会に参加される方は、終了後、係のものの案内に従ってください（同会場後方です）

【タイムテーブル】

13:00～13:05 開会挨拶

金井 友佑（予防鍼灸研究会 会長）

13:05～13:25 第1部：症例報告（座長：木村 高仁）

13:05～13:15

① 「糖尿病／物忘れ教室の10年の成果」

演者：足立 克仁（小川病院糖尿病/物忘れセンター長・NHO徳島病院 名誉院長）

13:15～13:25

② 「PC作業での違和感への鍼灸治療」

演者：喜島 颯（喜島鍼灸院 院長）

13:25～13:45 特別企画『ミニ鍼灸万博』（各4分×5）

① 13:26～13:30 金子 武良「ソフト指圧・間接法」

② 13:30～13:34 中盛 祐貴子「リンパドレナージ」

③ 13:34～13:38 鈴木 春子「緩和ケアの鍼」

④ 13:38～13:42 金井 正博「ミトコンドリア活性・運動と鍼」

⑤ 13:42～13:45 内原 拓宗「易占い」

13:45～14:45 第2部：基調講演（60分）

「ジストニアの診断と治療、病態」

演者：宮本 亮介（徳島大学病院 脳神経内科・特任講師）

座長：藤田 浩司

（14:45～14:55 休憩）

14:55～15:55 第3部：教育講演（60分）

「ジストニアに対する鍼治療」

演者：谷 万喜子（関西医療大学 保健医療学部 はり灸・スポーツトレーナー学科 教授）

座長：金井 正博

15:55～16:25 第4部：総合討論（30分）

登壇者全員 （事前質問・フロア質疑）

16:25～16:30 閉会挨拶

金井 友佑（予防鍼灸研究会 会長）

16:45～18:45 懇親会（事前申込制）

【会場案内】

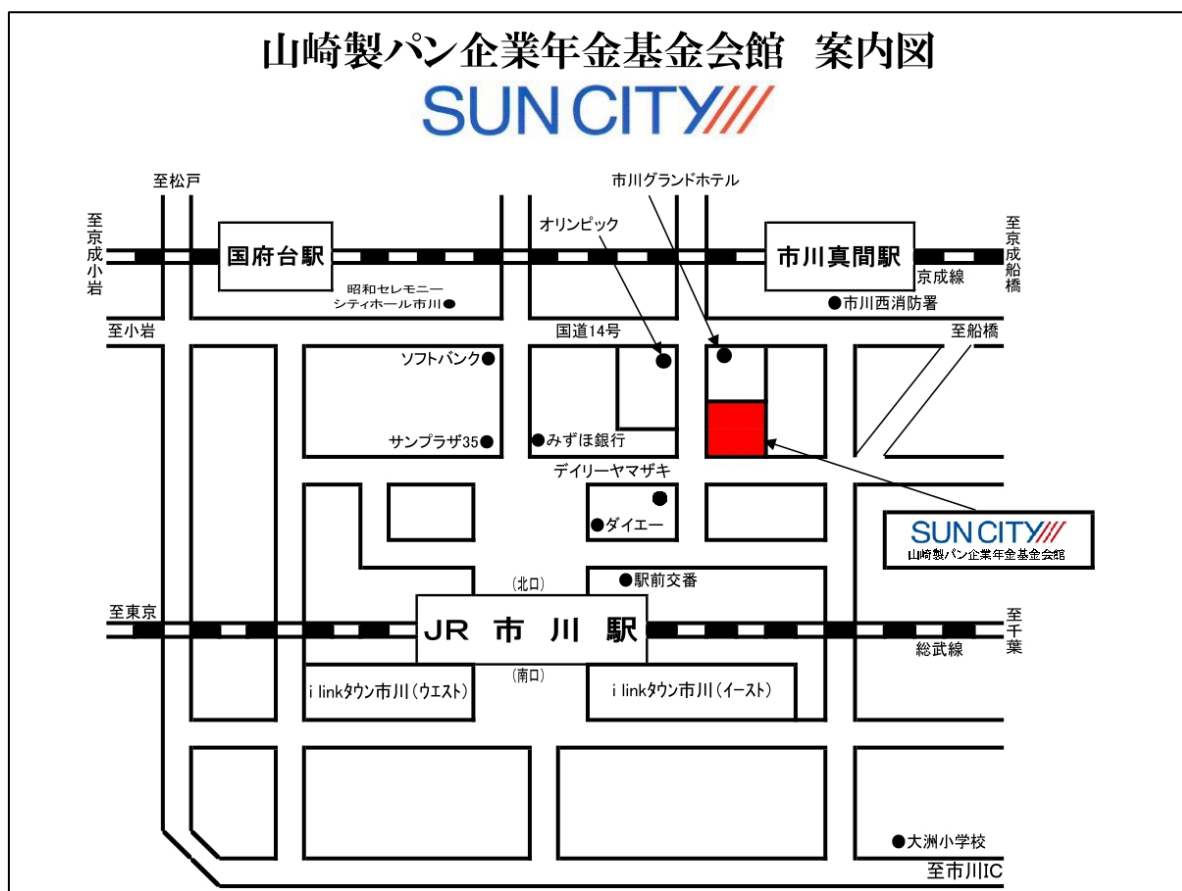
■ 会場

山崎製パン企業年金基金会館 SUNCITY 3F「陽光」

〒272-0034 千葉県市川市市川1-3-14

■ アクセス

- ・JR総武線「市川駅」より徒歩1分
- ・京成線「市川真間駅」より徒歩8分



■ 当日のご案内

- ・受付は会場入口付近に設置しています。
- ・トイレは同フロアにあります。混雑時は1階も使用できます。
- ・休憩スペースはロビーをご利用ください。
- ・懇親会は同会場（陽光）にて開催します。

■ 注意事項

- ・講演中の出入りは必要最小限でお願いします。
- ・会場内での録音・録画はご遠慮ください。
- ・体調不良時は無理せずスタッフにお声がけください。

会場の無線LAN(無料)
SSID
YAMAZAKI-guest

PW
guest0000



【会長挨拶】

本日は「第23回予防鍼灸研究会 定例会・発足5周年記念講演会」にご参加いただき、誠にありがとうございます。2019年に小さな勉強会として始まった本会は、コロナ禍を経てオンライン開催を中心に発展してきました。その間、距離を越えて多くの学びが生まれましたが、本年、5周年の節目に初めて“現地開催”の定例会を迎えられたことは、研究会にとって大きな挑戦であり、新たな一歩でもあります。

予防鍼灸研究会が大切にしてきた理念は、西洋医学と東洋医学が互いを学び合い、各々の強みを持ち寄りながら新たな視座へと昇華すること―すなわち「知のアウトプット」を生む場をつくることです。オンラインでは知識の共有が進みましたが、リアルな場に集うことでしか得られない対話、気づき、温度感があります。本日の現地開催は、まさにその原点に立ち返る機会です。

今回のテーマ「ジストニアの臨床最前線」は、本会の理念を体現するテーマです。専門医による最新の医学的知見と、鍼灸からの臨床的アプローチを横断的に学ぶことで、両者の間にある“隔たり”ではなく“橋”を見いだすことができます。難渋しやすいジストニアだからこそ、学術と実践を統合する視点が必要です。

また特別企画「ミニ鍼灸万博」では、開催地・千葉を中心に活躍の先生方をはじめ、各分野の実践家のご協力を得て、多様な技術や視点が一堂に集います。“教える／教わる”を超えた相互作用の中から、新たな発見が生まれることでしょう。ここには研究会のもう一つの柱である「つながり合う価値」が凝縮されています。

本日の学びと交流は、研究会後の懇親会へと続き、現地だからこそ生まれる縦横のつながりをさらに深めていきます。オンラインでは得られなかった“リアルの力”を、ぜひ一日を通して味わっていただければ幸いです。

予防鍼灸研究会はこれからも、予防医学・養生、多職種連携、そして臨床に根ざした知の統合を目指し、皆さまと共に歩み続けます。今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

予防鍼灸研究会
会長 金井 友佑

抄録【症例報告①】

小川病院「糖尿病/物忘れ」教室の10年間の成果

小川病院糖尿病/物忘れセンター長・NHO徳島病院名誉院長 足立克仁

【背景】我国では認知症と糖尿病は頻度が高く、関連性があり、これらの予防は喫緊の課題といえる。このため当地域の両疾病の予防を目指し、2016年から「糖尿病/物忘れセンター」を発足させ「糖尿病/物忘れ教室」を月一回開催し、両疾患の最新の情報を提供してきた。しかしコロナ禍の4年間は月一回の「糖尿病/物忘れ新聞」の発行にかえた。

【目的】この度、当センター発足10周年を迎え、10年間をまとめ、その成果について述べる。

【対象・方法】教室参加人数はコロナ禍を除いて1回あたり10～38名で女性と高齢者が多かった。この教室が地域に及ぼす影響を調べるため、物忘れ相談プログラム(MSP)値と簡易血糖値を、説明と同意のもと測定した。

【結果】1) MSP値：2017年～2025年の間に5回測定した。単回参加者の中には12点以下の物忘れが始まっている方がみられたが、継続参加者ではMSP値が年々悪化していく者はなかった。2) 簡易血糖値：2018年～2025年の間の3回、糖尿食提供1時間後測定した。単回参加者の中には200 mg/dl以上の高値がみられたが、継続参加者では血糖値が悪化していく者はなかった。糖尿病非指摘の1名のみは223mg/dlと高値だったが、1年で182mg/dlと下降傾向がみられた。

【結論】当センター活動の継続参加者には、両疾患の悪化はみられなかった。今後も継続して参加していただきたい。

略歴

1975年 徳島大学医学部卒業
1975年 徳島大学医学部附属病院医員（第一内科）
1981年 国立療養所徳島病院医員（内科）
2004年 国立病院機構徳島病院院長
2015年 国立病院機構徳島病院名誉院長
医療法人緑会小川病院糖尿病/物忘れセンター長

研究分野

徳島県難病医療等嘱託医
鳴門市認知症サポート医
予防鍼灸研究会学術委員

抄録【症例報告②】

PC作業で生じる手指から前腕の違和感に対する鍼灸治療

喜島鍼灸院 喜島顕

【背景】ジストニアとは自分の意思とは関係なく筋肉が収縮し、異常な姿勢や運動が続く状態である。両肩の凝りと右手指の違和感を訴えて来院された1例を報告する。

【対象・方法】50代の女性。事務職。主訴はX-11年頃から右前腕部～拇指・示指の運動障害と運動制限。X-9年にAクリニックを受診。「ジストニア」を疑われてB大学病院・脳神経内科を受診し、MRI(頭部及び頸部)・筋電図の検査を受けたが、病名の特定には至らず、診察は終了した。当院にはX-6年から受診。施療は本治法で右手指の症状に対しては単鍼による局所治療。両肩の凝りに対しては低周波治療も併用した。治療頻度は月3~4回だったが、両親の介護や転居等で多忙となり、通院の頻度が大幅に減少した。

【結果・考察】本治法による鍼治療は肩凝りに対しては少々であるが改善傾向が見られた。右手の運動障害では特に拇指の背屈制限が目立っていたが、なかなか改善は難しいと思われる。

【結論】「確定診断の必要性」から、X-4年5月にセカンドオピニオンとして近隣の整形外科の紹介状を通じてC病院・脳神経内科を受診し、ジストニアの確定診断が下された。その後も諸般の雑事の合間に通院を継続されている。

略歴

1983年 日本柔道整復専門学校柔整科卒業

2006年 日本鍼灸理療専門学校本科卒業

2008年 喜島鍼灸院開業 院長として現在に至る

抄録【基調講演】

ジストニアの診断と治療、病態

徳島大学病院 脳神経内科・特任講師 宮本亮介

ジストニアとは運動障害のひとつで、骨格筋の持続のやや長い収縮、もしくは間欠的な筋収縮に特徴づけられる症候で、ジストニア運動（しばしば反復性の要素を伴う）とジストニア姿位、あるいは両者からなる。ねじれる動きとして観察されることも多いが、顔面筋においてはねじれはみられず、例えば瞬目の増加や口のもぐもぐした動きとして観察される。ジストニアは発症年齢、罹患部位（局所性、分節性、全身性、多巣性、片側性）、経過、随伴症状などにより分類される。ジストニアの原因は多岐にわたるが、大きく、遺伝性、後天性、特発性に分類される。Japan Dystonia Consortiumのデータでは、遺伝性ジストニアの割合は約10%であった。現時点では特発性に分類されるものがなお多くを占めるが、それらについても浸透率の低い遺伝性疾患と考える向きがあり、新たな原因遺伝子の同定とその機能解明が待たれる状況である。ジストニアの病態は不明な点が多いが、DYT-*TAF1* (DYT3) やDYT-*TH* (DYT-5b) の機能解剖学的解析により、線条体のストリオソームの機能不全が発症のキーとなる可能性が示唆されている。ジストニアに対する新たな治療法開発のためには、まず特異的な治療ターゲットを同定する必要がある。私達は線条体ストリオソーム、特にストリオソーマルD1R陽性細胞に注目して研究を行っている。本講演では、ジストニアの診断、現行のジストニアの治療、さらにジストニアの病態について紹介する。

略歴

2005年 医療法人鉄蕉会亀田総合病院 初期研修医
2007年 医療法人鉄蕉会亀田総合病院 神経内科医員
2009年 徳島大学病院 医員
2011年 広島大学原爆放射線医科学研究所 分子疫学 特別研究員
2013年 徳島大学病院 医員
2014年 徳島大学大学院 医歯薬学研究部臨床神経科学分野 助教
2021年 徳島大学病院 脳神経内科 特任講師

抄録【教育講演】

ジストニアに対する鍼治療

関西医療大学大学院 保健医療学研究科

関西医療大学 保健医療学部 はり灸・スポーツトレーナー学科

谷万喜子

関西医療大学では、ジストニアに対する鍼治療効果を検討しています。多くは、ボツリヌス治療や内服薬による治療を受けたものの症状が残存している症例に対して、標準的な治療と鍼治療を併用しています。鍼治療の基本方針として、ジストニアの一次的障害である筋緊張異常に対しては、「循経取穴」の考え方をを用いて罹患筋の筋緊張調整を図っています。頸部ジストニアの主な罹患筋に対する治療経穴として、胸鎖乳突筋には手陽明大腸経の合谷、僧帽筋上部線維には手少陽三焦経の外関、板状筋には手太陽小腸経の後溪あるいは手少陽三焦経の外関を用いています。不随意運動に対しては、その要因である罹患筋への治療と同時に、百会を用いています。ステンレス製のディスポーザブル鍼（20号鍼）を用いて、刺入深度約5mmで置鍼します。ジストニアの問題点として、罹患筋の筋緊張亢進ととらえられることが多いですが、筋緊張低下が問題となることもあります。鍼治療では、一つの罹患筋に対して同じ経穴を用いて筋緊張抑制と筋緊張促通を図ることができ、これは、鍼治療の利点と考えられます。また、ジストニアの治療では、筋緊張異常とともに、異常姿勢が持続することによって二次的に生じる皮膚短縮や筋短縮も問題となります。鍼治療の際は、一次的障害としての筋緊張異常と二次的障害を評価して、それぞれに対応することが重要です。具体的な治療について、実技とともにご紹介します。

略歴

1986年 帝塚山学院大学 文学部日本文学科卒業

1991年 関西鍼灸短期大学 鍼灸学科卒業

1991年 関西鍼灸短期大学附属診療所勤務

1992年 関西鍼灸短期大学助手

1999年 関西鍼灸短期大学講師

2003年 関西鍼灸大学講師

2007年 関西医療大学保健医療学部鍼灸学科講師

2010年 関西医療大学保健医療学部鍼灸学科准教授

2018年 関西医療大学保健医療学部・関西医療大学大学院保健医療学研究科教授

【特別企画：ミニ鍼灸万博】

本定例会では、発足5周年を記念し、予防鍼灸研究会の多彩な専門性を体感いただく特別企画「ミニ鍼灸万博」を開催します。各講師が日頃の臨床で磨いてきた技術・視点・方法論を、短時間でギュッと凝縮して紹介する企画であり、鍼灸・手技・東洋思想まで、多様なアプローチを一度に体験できる、“ライブ型ミニセッション”です。

今年は、指圧、リンパドレナージ、緩和ケアの鍼、運動と鍼によるミトコンドリア活性アプローチ、そして易占いによる評価視点と、5名の先生方が全く異なる角度から臨床のヒントを提示します。

【実施時間】

13:25～13:45（各演者 4分 × 5名）

【目的】

- ・ 多様な専門領域に触れ、臨床の幅を広げる
- ・ 鍼灸を中心にした“複合的アプローチ”の可能性を知る
- ・ 参加者同士の交流のきっかけとする

【進行形式】

- ・ 5名の講師が4分ずつ、短時間で技術・考え方を紹介
- ・ 実技デモが入るものもあり、視覚的に理解しやすい構成
- ・ 詳細は次ページの「出演者紹介」を参照

本企画が、本日の講演内容とともに、皆さまの日々の臨床へ新たな視点をもたらすきっかけとなれば幸いです。

【ミニ鍼灸万博：出演者紹介】

■ 「ソフト指圧・間接法」

金子 武良

【略歴】

今年で開業40年目。指圧は2人の師匠のもとで学び、その後独自研究を深め現在の技法を確立。

“患者がリラックスして受けられ、施術者も無理なく行える指圧”を追求し続けている。
後進育成にも精力的に取り組む。

■ 「リンパドレナージ」

中盛 祐貴子

【略歴】

日本指圧専門学校49期卒。浪越指圧治療センター本部で2年勤務後、横浜市戸塚区で独立し、今年で開業15年目。リンパ浮腫療法士として12年のキャリアを持つ。

金子武良先生・川原善次郎先生に師事。

■ 「緩和ケアの鍼」

鈴木 春子

【略歴】

東洋鍼灸専門学校卒。国立がん研究センター中央病院・東病院緩和ケア科で約20年勤務。

2000年「無量光寿庵はる治療院」を開業。現在、東洋鍼灸専門学校講師。

春の会（鍼灸によるがん緩和ケア研究会）主宰。座右の銘は「万事塞翁が馬」。

■ 「ミトコンドリア活性 × 運動と鍼」

金井 正博

【略歴】

木更津杏林堂院長。自然鍼灸研究家。鍼灸はミトコンドリアを活性化しATP産生を高め、がん細胞の代謝を乱すことで予防・抑制に寄与すると考察。研究では疲労軽減・抗がん作用の可能性も示唆され、“ミトコンドリア強化がすべての鍵”と提唱。

■ 「易占い」

内原 拓宗

【略歴】

2005年関東鍼灸専門学校卒業。訪問鍼灸、鍼灸学校講師を経験し、
千葉大学大学院医学研究院和漢診療学非常勤講師、同附属病院鍼灸外来、
整形外科附属鍼灸院、婦人科クリニック鍼灸外来など多施設で臨床に従事。
現在も都内鍼灸院で活動中。

【予防鍼灸研究会について】



予防鍼灸研究会（SGPAM：Study Group for Preventive Acupuncture and Moxibustion）は、西洋医学と東洋医学をともに学び、両者を結ぶ“架け橋”となることを目的に2019年より活動しています。疾病の理（ことわり）を深く理解し、国民の健康維持・増進、そして疾病予防に寄与することを理念としています。

取り組む領域は多岐にわたります。高齢化とともに増える老化・慢性疾患の健康支援、術後の体力回復、栄養・睡眠といった生活課題、さらに ALS、パーキンソン病（PD）、アルツハイマー病（AD）などの神経難病・難治疾患にも積極的にアプローチしています。現在、脳神経内科・精神科・漢方・栄養・鍼灸・あん摩マッサージ指圧・リハ職、学生まで、全国から多様な専門家が参加しています。

本会では年4回（1月・3月・6月・11月）の定例会と、年1回（8月）の特別例会を開催し、オンラインと現地参加の双方から学べる環境を整えてきました。臨床の実践・研究報告・特別講演・多職種連携など、学び合いの場として成長し続けています。

【会員制度について】

<会員特典>

- ・年4回の定例会に無料参加（特別例会は別途）
- ・定例会のアーカイブ動画を視聴可能
- ・会員専用エリアで過去の発表資料を閲覧可能

<年会費>

- ・会員：5,000円 / 学生会員：2,000円
（非会員：定例会 2,000円／回、特別例会 4,000円）

※初回非会員参加後、次回3,000円の追加で会員へ移行できます。

<入会方法>

当会HPの入会案内のページからお願いします。

予防鍼灸研究会HP

<https://www.sgpam-japan.jp/>



【今後の予定】

■ 第24回 予防鍼灸研究会 定例会

2026年 1月（テーマ：**鍼灸と免疫**で開催予定）

詳細は決定次第、HP・SNSにてご案内します。

本研究会は、臨床・研究・地域連携を見据えた「予防の視点を持つ鍼灸」を探究し、皆さまとともに未来の医療をつくっていきます。今後ともよろしくお願いいたします。